

〈技術資料〉

津軽塗 新定番商品開発事例

The New Regular Assortment Development Anecdotal Report of Tsugaru-nuri

小松 勇

1. はじめに

本州最北端の漆器産地である津軽塗は「研ぎ出し変わり塗」と呼ばれる技法を有した伝統的工芸品である。

しかし、近年売り上げの低迷や後継者不足などの問題を抱えている。

津軽塗業界全体の経済基盤の強化を図るためには新規需要の開拓が必要不可欠であることから、新たな成長市場である「一般購買層（若年、大衆向け）」市場への進出に向けた品質を保持しながら、手頃な価格帯と現代的なデザインを両立させた魅力ある津軽塗新定番商品の開発が求められている。

なぜならば、定番商品を開発する上で定番商品のみを開発やPRだけであれば、それはそのブランドでの単一商品となってしまう。従来の伝統的な津軽塗商品は昔からの技法と素材に拘り手間暇をかけたものであるため、10,000円前後の価格である。

よって、あこがれ商品として質も技術も兼ね備えた「津軽塗」と顧客負担に見合った（適正）価格設定である津軽塗新定番商品「津軽うるおい漆」の2通りのラインナップは津軽塗産業としてブランドとして早期に構築すべき改題であ

2012年8月20日受付
KOMATSU Isamu



写真1 新定番商品検討委員会

る。

当研究事業では青森県商工労働部工業振興課、津軽塗業界と連携をとり、伝統技法工程の洗い出しから、適正価格帯である定番製品の方向性と開発、さらに販売促進のためのツール開発までを実施した。

2. 事業内容

2.1 津軽塗新定番商品検討委員会の設置運営
本事業の推進体制は、津軽塗業界・専門家コンサルタント・支援機関・工振課・当研究所で「新定番商品検討委員会」を設置した。

また、下部組織として各種案件を検討するワーキンググループを設置し、事業を実施した。

2.2 製造工程の調査

津軽塗の主な商品（箱物・椀物・盆物）、技法3種（唐塗¹⁾・ななこ塗²⁾・紋紗塗³⁾）の工程